

授業概要

英語についての体系的・科学的な研究について以下の項目を概観する。音声・音韻(調音の仕組み、音の体系)、形態論(語形成、語の内部構造)、統語論(文の構造)、意味論(語や文の意味解釈の規則性)、語用論(言外の意味、実際の場面での言語使用)、情報構造(文章による情報の提示の仕方)、英語の変種(英語・米語の地域変種、世界の英語圏)、英語圏の文化、英語と社会、英語学の応用(英語教育と教授法)。特に教職(英語)に就くために是非身につけておいて欲しい基礎知識、分析の仕方を重点的に取り上げる。英語学は事実(データ)に基づいて、なぜそうなっているかという問いに対して説明を与える、背後にある規則・原理を明らかにする研究だからである。

授業計画

第1回	音声学(英語の実際の発音における音声の特徴、音産出のメカニズム)
第2回	音韻論(英語話者の頭に収められた音の単位(=子音・母音)の体系、韻律特性)
第3回	形態論(形態素と英語の語の内部構造)
第4回	形態論(英語の語形成)
第5回	統語論(語と語を規則的に組み合わせて文を作る仕組み、句構造規則、変形規則)
第6回	統語論(自然科学の方法論に基づく研究成果-生成文法、認知文法、動的文法理論)
第7回	意味論(ことばの意味とは何か? 様々な意味関係、多義性、焦点と前提、含意)
第8回	意味論(メタファー、メトニミー、法助動詞 can, may, must などの特性)
第9回	語用論(会話のルール、表現と意味の食い違い)
第10回	情報構造(英語の文章の情報の配列(新情報と旧情報)、文章のまとめり)
第11回	英語の変種(英語と米語の地域的な変種、世界の英語、英語の変化)
第12回	英語の文化(英語的ものの見方・文化、サピア・ウォーフの仮説)
第13回	英語と社会(米デパートの調査-社会階級、職業、年齢による英語の違い、黒人英語、混成英語)
第14回	英語学の英語教育への応用(英語教授法や英語習得研究の基礎)
第15回	21世紀の英語学—脳科学との接点、学際的研究 Knott (2012)
第16回	筆記試験

到達目標

英語という言語の科学的な研究のアプローチを身につけ、またこれまでのこの分野の研究成果について一通りの知識を得ること。

履修上の注意

毎回、英語学のトピックで重要と思われることについて課題を課す(各自で調べ、練習問題を解いて翌週提出してもらい、答え合わせを行なう)。出席を重視する。授業の3分の1以上欠席した場合は期末考查を受ける資格を失う。遅刻は3回で1回の欠席とみなす。中学・高校の英語教員免許取得を目指す学生は必修である。

予習復習

事前に配布されたプリント教材を読んで来ること。また授業でとったノートは、配布資料を見ながら毎回復習すること(英語書かれている論文、文献を使用する。正確さを期するため原典にあたることが大切だからである。)

評価方法

主として期末試験、出席を基に評価するが、授業への参加度、毎回の課題提出などをボーナス点として考慮することもある。

テキスト

印刷補助教材や視聴覚教材を用意する。参考文献は随時紹介する。

参考文献 Kageyama, de Chene, and Hibiya et al. *First Steps in English Linguistics*, Kuroshio.